

# 社会福祉援助技術論 B

	単位数	履修方法	配当学年
科目コード	CE3072	担当教員	川口 正義



※この科目は、平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前に入学した方は履修することはできません。

## ■科目の内容

「社会福祉援助技術論 A」の p.90をご参照ください。

本科目では、「社会福祉援助技術論 A」の学修内容を踏まえた上で、以下の内容について学びます。

1. 様々な実践モデルとアプローチ
2. ケースマネジメントとケアマネジメント
3. グループを活用した相談援助
4. コーディネーションとネットワーキング
5. 社会資源の活用・調整・開発
6. スーパービジョンとコンサルテーションの技術
7. ケースカンファレンスの技術
8. 事例研究・事例分析—意義・目的・方法・留意点—
9. その他

## ■到達目標

- 1) 相談援助において対象をどのようにとらえるかについて述べることができ、さらに対象理解に際して援助専門職に必要な姿勢、専門性について解説することができる。
- 2) ソーシャルワーク実践理論の分化・多様化の動向を踏まえたうえで、実践モデルと実践アプローチの意味と内容について解説することができる。
- 3) 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの特徴について述べることができ、さらにジェネラリスト・ソーシャルワークにおける三つの実践モデルの活用の仕方について解説することができる。
- 4) 従来の実践アプローチ（心理社会的、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）の発展史を踏まえたうえで、新興アプローチ（エンパワメント、フェミニスト、ナラティブ、EBSW）の内容、及び注目されるに至った社会的背景と意義について説明することができる。
- 5) ケースマネジメント、グループ活用、コーディネートとネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、スーパービジョンとコンサルテーション、ケースカンファレンス、事例研究・事例分析の各技術の意義と目的について説明することができる。

■教科書（「社会福祉援助技術論 A」と共通のため、この科目での教科書配本はありません）

- 1) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ（第3版）』中央法規出版、2015年（第3版でなくても可）
- 2) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ（第3版）』中央法規出版、2015年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年3月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	対象の理解	社会福祉援助活動の概念と定義、対象のとらえ方について理解する。	相談援助において「対象を理解する」ことの必要性和意義、必要とされる視点について理解しましょう。
2	ケースマネジメント①	ケースマネジメントの基本、過程、アセスメントの特徴、ケアプランの作成・実施の特徴について理解する。	ケースマネジメントの必要性について考え、その過程についてソーシャルワークの過程と対比させながら理解しましょう。
3	ケースマネジメント②	ケースマネジメントの特徴、ケースマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。	ケースマネジメントの特徴について整理し、ソーシャルワーカーが実施するケースマネジメントの独自性について理解しましょう。
4	グループを活用した援助	人間にとっての集団の意味、グループワークの意義、自助グループを活用した相談援助について理解する。	グループワーク、サポートグループ、当事者組織、自助グループの相違と特徴について理解しましょう。
5	コーディネーションとネットワークワーキング	コーディネーションの目的と意義、方法・技術・留意点、及びネットワークワーキングの意義と目的、方法について理解する。	コーディネーションとネットワークワーキングの必要性和関係について理解しましょう。
6	社会資源の活用・調整・開発	社会資源の種類、活用・調整・開発の意義と目的、方法、留意点、ソーシャルアクションによるシステムづくりについて理解する。	社会資源の開発（再資源化と開発）、ソーシャルアクションがクライアントの権利を擁護していくうえで重要であることを理解しましょう。
7	実践モデルとアプローチⅠ	実践モデルとその意味、3つの実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開について理解する。	実践モデル、アプローチが分化・多様化している状況、3つの実践モデルの内容と相互の関係について理解しましょう。
8	実践モデルとアプローチⅡ	心理社会的、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容の6つの実践アプローチの内容について理解する。	主にケースワークの場面で活用される6つの実践アプローチの特徴について理解しましょう。
9	実践モデルとアプローチⅢ	エンパワメント、ナラティブ、実存主義、フェミニスト、解決志向の5つの実践アプローチ、実践アプローチをめぐる課題について理解する。	実存主義アプローチを除き、それまでのアプローチがもつ限界を指摘しつつ登場してきたものであることをふまえ、その特徴について理解しましょう。
10	スーパービジョンとコンサルテーションの技術	スーパービジョンの意義と目的、方法、留意点、及びコンサルテーションの意義と内容について理解する。	スーパービジョンの必要性和3つの機能、スーパービジョン関係形成の重要性について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	ケースカンファレンスの技術	ケースカンファレンスの意義と目的、運営と展開過程、実際、評価と普遍化について理解する。	ケースカンファレンスの目的を五つの視点から整理し、その意義について三つの視点から理解しましょう。
12	個人情報の保護	個人情報の定義、個人情報の考え方、個人情報保護制度、個人情報保護の課題について理解する。	クライアントの生活と権利を守り、支えていくために、個人情報とどう向き合い、いかに保護し、活用するのか、考え、理解しましょう。
13	情報通信技術の活用	情報通信技術と福祉情報、相談援助における情報通信技術の活用、留意点について理解する。	情報通信技術が必要となってきた社会的状況を理解したうえで、相談援助における活用のあり方について理解しましょう。
14	事例研究・事例分析	事例研究の目的と意義、方法と留意点、及び事例分析の目的と意義、方法と留意点について理解する。	事例研究と事例分析の相違を整理し、それらがソーシャルワーカーの自己研鑽にとって必要かつ重要であることを理解しましょう。
15	相談援助の実際	ミクロ、マゾ、マクロの各レベルの具体的な事例を通して、相談援助について理解する。	具体的事例を通して、ソーシャルワーク援助の対象の広さと実践の広さを理解しましょう。

■レポート課題（手書きレポート用紙の p.1、p.9 の課題記入欄は、「課題名」として表示されているものの記載で可。）

1 単位め	<p><b>課題名：「実践モデル・アプローチの発展史と現状・課題」</b>            実践モデル・アプローチの発展史を概説した上で、近年、EBSW（エビデンス・ソーシャルワーク）と構成主義アプローチが注目されるに至った社会的背景、意義について論述してください。            ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>
2 単位め	<p><b>課題名：「私の考える『援助』観」</b>            自らの「援助」観について論述してください。</p>

■アドバイス

「社会福祉援助技術論 A」の p.93～95 もご参照ください。



実践モデル・アプローチは特定の問題のとらえ方と、それに基づく対応方法・技法のまとめりであり、実践をガイドする役割を担うものです。また、ソーシャルワーカーがその活動の妥当性を利用者・当事者や所属組織、関係機関等に説明する際に活用する知識体系でもあります。

ソーシャルワークが時代社会状況による影響を受け、その時々々の社会の動向や要請にできていかなければならないという宿命を有する営みであるように、そのガイド役となる実践モデル・アプローチも時代とともに多様化してきました。そして、ソーシャルワークのための実践モデル・アプローチはその時代社会で有力な隣接諸科学の知見を広く取り入れつつ多種多様に発展してきました。

ソーシャルワーカーは現実の場面で出会う複雑な状況に対応するためには、単一の実践モデル・アプローチのみでなく、どのような状況で、どのような実践モデル・アプローチが有効に機能するのかを理解した上で、それらを自らの実践に適切に応用していくことが求められます。

まず、各実践モデル・アプローチの定義、固有の視点、意義およびその史的展開を理解し、簡潔にまとめてください。その上で、1990年代に入り「社会構成主義」と「証拠に基づく実践」(Evidence Based Practice) の考え方がソーシャルワークの領域においても注目を集めるに至った社会的背景とその意義について論述してください。(テキスト『相談援助の理論と方法Ⅱ』第6～8章、及び参考図書『相談援助の基盤と専門職』第3～4章、参照)

2 単位め  
アドバイス

ソーシャルワーカーには「時代の風」を感じ、読みとる能力が求められます。また、ソーシャルワークの過程においては、自分とは異なる存在である利用者・当事者に対し誠実に向き合い、その人生に関心を寄せ、言葉にできないその人の痛み、哀しみ、苦悩等を感じとることができる関係が求められます。

しかし、残念なことに「時代の風」は冷たく、混沌としており、利用者・当事者のみならずソーシャルワーカーをも翻弄させています。また、そのソーシャルワーク実践が援助を提供する側の意図や立場が優先される中で行われてしまっている、まさに「当事者主権」のスローガンとは程遠い現実も散見されます。

このような状況を踏まえたとき、「人を援助する」とはいかなる意味をもつのでしょうか？あるいは「ソーシャルワーカー」とはいかなる営みを行う人のことをいうのでしょうか？さらに、利用者・当事者を“主人公”にした援助とは、いかなるものであるべきなのでしょう？—これらについて自問し、再考する必要に迫られています。

これらの問いに答えるためには、自らの準拠している価値・倫理観のあり様を見つめ直す作業が不可欠となります。また、なぜ自分が援助専門職（ソーシャルワーカー）を目指そうとしているのか？その思いの「原点」およびその形成過程における「こだわり」(パッションとミッション)の中身を振り返る作業も必要となってくるでしょう。

ソーシャルワーカーの実践力は時代の動向を利用者・当事者の生活実態と照合しながら的確に把握できることにより蓄えられます。あなたはどのように「時代の風」を感じ、読みとっていますか？そして、その中であなたが希求し、実践していきたいと考えているソーシャルワークとはどのようなものですか？

本科目の学修のまとめとして、また自らの「ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ」を構築していくために、あなたが望ましいと考える「援助」観について“自分の言葉”で述べてください。

### ■レポート作成に際しての留意点（「社会福祉援助技術論 A・B」に共通）

「社会福祉援助技術論 A」の p.95～96 をご参照ください。

### ■科目修了試験 評価基準

- 1) 各出題に含められているポイントすべてについて論述されていること。
- 2) ポイントに関して教科書のなかで説明されている内容を理解していること。
- 3) 論理構成と展開が明確であること。
- 4) 記述の分量（1問あたり400～800字程度）が確保されていること。

## ■参考図書

---

「社会福祉援助技術論 A」の【参考図書】 p.96～97を参照してください。

## ■履修登録条件

---

この科目は、「社会福祉援助技術論 A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。